



国家出版基金项目  
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

侵华日军第七三一部队罪行实录

金成民 主编

日本细菌战史料集

寄生虫类

(二)

孙志平 编著



国家出版基金项目  
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

# 侵华日军第七三一部队罪行实录

金成民 主编

# 日本细菌战史料集： 寄生虫类

(二)

李志平 主编

中国和平出版社

# 目 录

- 1 利用鼷鼠及豚鼠饲养印鼠客蚤的一例实验 / 小酒井望 林实
- 12 关于检测疟原虫过程中厚片标本的优劣、吉姆萨染色法与马森三色染色法的原虫检测率对比实验 / 寺内政雄
- 20 关于低温对印鼠客蚤幼虫的影响  
第1篇 在0℃至-14℃低温下的裸露时间与生存情况的关系及其与日本鼠蚤幼虫的耐低温能力比较 / 小酒井望
- 33 关于印度鼠蚤在高温下的营茧、蛹化现象 / 小酒井望
- 40 中支那地区日本血吸虫的中间宿主 / 柴田进等
- 62 印鼠客蚤卵相关研究  
特别是关于孵化天数及孵化率与温湿度的关系 / 小酒井望
- 75 关于印鼠客蚤成虫耐低压能力的实验性研究 / 村国茂
- 91 酒精、酒、千金藤素、(药学教室第8号、第10号)药物(疟疾治疗剂)  
对鸟疟原虫的抵抗效果试验 / 芦田二三男
- 101 利用药剂进行的原虫性疾病预防、治疗及相应免疫实验研究 / 土井茂
- 137 饲养用供血源大黑鼠的性别与印鼠客蚤繁殖之间的关系  
关于卵泡囊荷尔蒙的影响 / 村国茂 林实
- 148 关于新杀虫剂“Benz”的杀蚤能力 / 吉植庄平

169 对印鼠客蚤传播地方性斑疹伤寒的研究

第1报告 关于地方性斑疹伤寒病原体及其在饥饿蚤体内的消长  
(其一) / 小酒井望

177 对印鼠客蚤传播地方性斑疹伤寒的研究

第2报告 鼠蚤在患鼠体内的吸着天数和立克次氏体的出现状态、饥饿  
鼠蚤体内立克次氏体的消长  
其二 及感染蚤与健康蚤生存天数对比 / 小酒井望

192 对印鼠客蚤传播地方性斑疹伤寒的研究

第3报告 关于卵生遗传 / 小酒井望

197 佐仓附近中华按蚊 (*Anopheles hyrcanus* var. *sinensis* Wiedemann) 活动的  
日周期变化相关调查 / 山田常道 长谷川吉正

205 防疫给水部医务箱收纳材料品目明细表

昭和十七年(1942)试制 / 出井胜重等

273 湾沚镇疟疾调查

第1篇 湾沚镇的地形与居民及四季变化情况 / 柴田进等

282 湾沚镇疟疾调查

第2篇 疟蚊的季节性消长 / 柴田进等

304 湾沚镇疟疾调查

第3篇 中华按蚊幼虫的生存状态 / 柴田进等

326 结核菌分离培养相关见解补遗

其一 腋汁中的结核菌培养 / 弘冈正

333 关于香港疟疾及疟蚊的调查成果 / 木俣邦夫 远山武志

- 343 关于陆军军医学校教室研创制的防蚊液第3号效果实验 / 长谷川吉正
- 350 关于恰加斯病的现状（总论） / 儿玉鸿
- 378 关于疟原虫尤其是培养方法的相关研究  
    第1篇 关于鸟疟原虫的保存能力 / 山下义英
- 404 关于印鼠客蚤幼虫中的一种消化道寄生族虫  
    其一 幼虫的寄生状态 / 小酒井望
- 410 关于作为中华按蚊幼虫饵料的浮游生物相关研究及其对于疟蚊捕灭对策的意义 / 陆军军医学校防疫研究室
- 423 关于温度及湿度对印鼠客蚤营茧、蛹化、羽化的影响  
    第1编 前蛹期及蛹期与温湿度的关系 / 陆军军医学校防疫研究室
- 431 关于鸟疟原虫（*Plasmodium praecox*）对酸碱度的抵抗性 / 陆军军医学校防疫研究室

陸軍軍醫學校防疫研究報告  
第2部 第458號

「マウス」及「モルモット」ヲ用ヒタル「ケオビ  
スネズミノミ」飼育ノ一實驗例

陸軍軍醫學校軍陣防疫學敎室(主任 増田大佐)

陸軍軍醫中尉 小酒井 望  
嘱託林 實

第 2 部
原 著
分類
385-6
481-
受附 昭和 17.12.30

458 -2

## 目 次

- 第1章 緒 言
- 第2章 實驗材料
- 第3章 實驗及結果
- 第4章 結論並ニ考按
- 引用文獻

### 第1章 緒 言

筆ハ他ノ寄生蟲ノ如ク特定ノ宿主ニゾミ寄生スルモノデハナク、屬ニ本來ノ宿主カラ他ノ動物  
ヘ移行スル事ハ、既ニ一般ニ知ラレテキル所デアル。「ケオビスネズミノミ」ニ關シテハ、小泉丹  
<sup>(1)</sup>氏ハ『動物間ノ移行性著シク』ト記載シテキル如ク、鼠ノミナラズ他ノ數種ノ動物ヨリ見出サレ  
キル。併シ他ノ動物ヘ移行スルト云ツテモ、果シテ本來ノ宿主タル鼠以外ノ動物カラ吸血シテ產  
卵スルカ否カ明カデハナイ。Martini ノ醫用昆蟲學教科書ニ據レバ、氏ハ蚤ガ饑餓ニ陥ツク時  
ヘ、他種動物ニ移行シテ吸血スル事ヲ述べ、次テ「併シ、本來ノ宿主ノ血液ガ產卵ニ必要デアル  
ト思ハレル」ト記載ジケキル。「ケオビスネズミノミ」ニ就テ、吸血ナクシテハ決シテ產卵シナ  
イ事ヘ村國大尉ノ報告シテキル所デアルガ、鼠以外ノ動物ノ血液ガ「ケオビスネズミノミ」ノ產卵  
ニ對スル刺殺トナリ得ナイモノカドウカ、此ノ點未ダ充分明カズハナイ。

此處ニ於テ、私達ヘ實驗用動物トシテ最モ普通ニ使用サレテキル「マウス」及「モルモット」ヲ用  
ヒテ「ケオビスネズミノミ」ヲ飼育シ得ルカ否カ、飼育シ得クトスレバ本來ノ宿主タル鼠ニ比シテ  
飼育成績如何、即チ「マウス」及「モルモット」ノ血液ガ鼠ノ血液ニ比ベテ、何ノ程度ノ產卵刺殺ヲ  
與ヘ得ルカニ關シテ實驗シタ例ヲ報告スル。

### 第2章 實驗材料

#### 1) 飼育室

陸軍軍醫學校防疫研究室ノ一室、10月8日ヨリ燈房ノ電氣ストーブヲ用ヒ、乾燥ヲ防グ  
タメ常ニ床上ニ撒水シタ。

#### 2) 飼育容器

從來使用シテキル石油罐5箇ヲ用ヒ、各罐100gノ乾燥鋸屑ヲ入レタ。

#### 3) 供試 蛋

9月16—17日ノ間、24時間以内ニ羽化シタ非吸血蛋壁紙各々10合計20四ツ各罐ニ投入シタ。

#### 4) 動物及其ノ飼料

大黒鼠ヘ約50g、「マウス」ヘ10~15g、「モルモット」ヘ約250gノ健康ナル寄生蟲ナキモノ  
ヲ用ヒ、何レモ金網製ノ固鼠器ニ入レ、死亡シタナラバ直ニ交換シタ。

飼料トシテヘ野菜(馬鈴薯、甘藷、人參)、穀物(大麥、「ツブシ麥」)ヲ用ヒタ。

### 第3章 実験及結果

下記ノ如キ実験區ヲ設ケタ。

第Ⅰ組 大黒鼠1匹ヲ同鼠器ニ入レタ、之ハ他ノ4組ニ對スル對照デアル。

第Ⅱ組 「マウス」1匹ヲ同鼠器ニ入レタ。

第Ⅲ組 「マウス」3匹ヲツノ同鼠器ニ入レタ。

第Ⅳ組 「マウス」5匹ヲツノ同鼠器ニ入レタ。

第Ⅴ組 「モルモット」1匹ヲ同鼠器ニ入レタ。豫備試験ニ於テ約250gノ「モルモット」ヲ  
ヘズ飼育罐ニ入レテ置ク場合ハ床ノ温潤ガ甚シイ爲ニ隔日ニ飼育罐ヨリ外ニ出シ  
タ。

實驗開始20日目カラ5日毎ニ各罐内ノ「ケオビスネズミノミ」成蟲ヲ村國式分離器第2號ニ依ツ  
テ分離シ、双眼顕微鏡ヲ用ヒテ雌雄別ニ其ノ數ヲ數ヘ、再び飼育罐中ニ戻シ、略ニ第3代成蟲が  
出現シ終ル迄、即チ12月21日迄觀察シタ。

分離器ヲ用ヒテ成蟲ヲ分離スル際、成蟲ヲ完全ニ分離シヤウトスル程、蚤床ノ銀層ニ強イ光ア  
アテ裸眼シ攪拌スル爲、卵、幼蟲、蛹、成蟲、殊ニ卵及蛹ニ強イ物理的障礙ヲ與ヘル事ハ勿論ノ  
事デアルカラ、各觀察時ノ成蟲數ハ斯カル障礙ヲ與ヘナイ場合ニ比較シテ、可ナリ少數デブル本  
ハ想像サレル。併シ各罐ニ略ニ一樣ノ障礙ヲ與ヘタノデアルカラ、大黒鼠ヲ用ヒタ第Ⅰ組ヲ對照  
トシテ他罐ノ成蟲數ヲ比較スレバ、「マウス」及「モルモット」が吸血原トシテ用ヒ得ルカ否カヲ判  
定スル資料クリ得ルモノト考ヘル。

12月21日ニ於ケル各罐ノ成蟲數ノ比ハ第Ⅰ組ノ成蟲數ヲ1トスレバ1:0.93; 1.34; 1.89;  
0.66デ此ノ數値ヘ更ニ增大スル傾向ヲモツテキル。

此ノ一實驗例ヨリ見レバ、「マウス」及「モルモット」ハ共ニ「ケオビスネズミノミ」飼育ノ吸血原  
クリ得ルモノデアツテ、「マウス」3匹乃至5匹ヲ一單位トシテ使用スル時ヘ相當良イ成績ヲ得  
ル。

第1表ハ5日毎ニ觀察シタ各罐毎ノ雌雄別成蟲數デ、第2表ハ實驗間ノ飼育室ノ溫度デアル  
、溫度ハ毎日ノ最高最低溫度ヲ平均シタルモノデアルカラ鼠ノ平均溫度トハ幾分ノ相違ヲ免カ  
レナイ。溫度ヘ1日3回即チ8~9時、12時、18時ニ測定シタ値ノ平均デアル。

實驗間、動物ノ使用數ノ合計ヘ

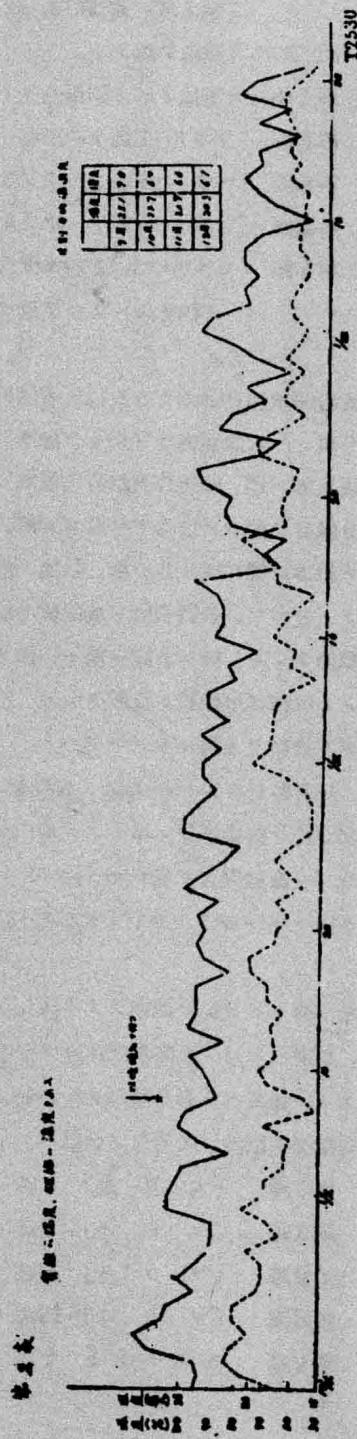
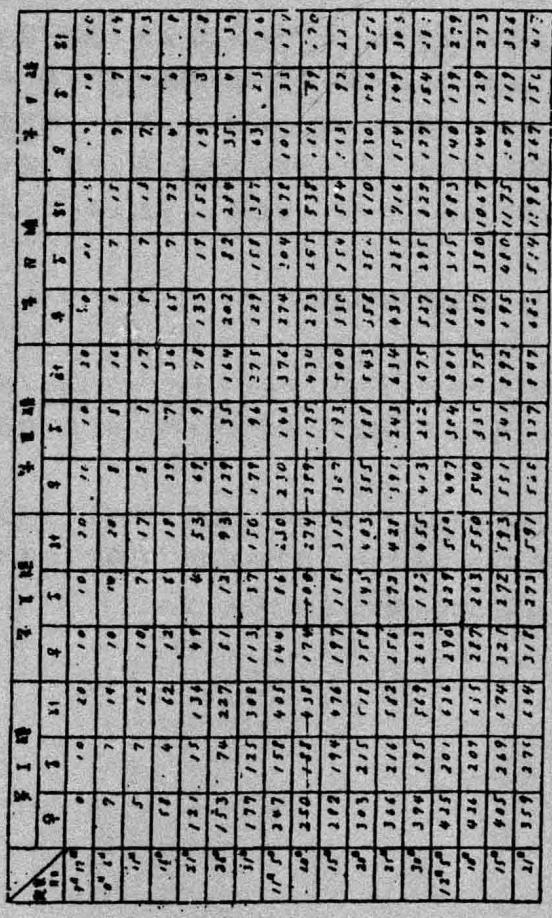
第Ⅰ組 「大 黒 鼠」 9匹

第Ⅱ組 「マ ウ ス」 6匹

第Ⅲ組 「マ ウ ス」 20匹

第Ⅳ組 「マ ウ ス」 19匹

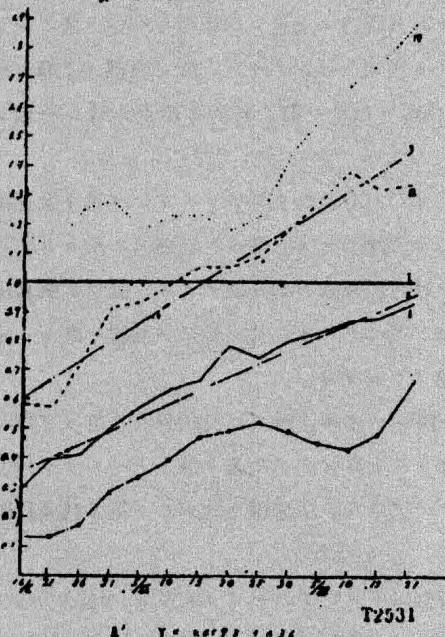
第Ⅴ組 「モルモット」 2匹



456-5

1) 10月16日より12月21日迄ノ各觀察日ニ於ケル各齋成蟲數ノ比ツ 第Ⅰ齋フトシテ圖示スレバ

第3表



第3表ノ如クナル。

即チ第Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ齋何レゾ第Ⅰ齋半比シテ成蟲ノ増加率ガ大ナル。例ハ第Ⅰ齋ヘ最初第Ⅰ齋ノ約6割デアツカガ、11月10日頃ニハ略々同数トナリ、12月21日ニハ過外ニ第Ⅰ齋フ破滅シテキル。此ノ原因ハ恐ダク「ケオビスピズミノミ」が本來ノ宿主デハナズ「マウス」及「モルモット」ニ適應シ「マガス」「キルモット」モ「ケオビスピズミノミ」ノ外部寄生條件ヲ満足スル様ナ環境ヲ與ヘ、所謂「オビスピ氣候」ニ近イ狀態ニナツク萬ド考ベル外ナイデアラウ。

第Ⅳ齋ニ於テ11月25日頃カラ曲線が激漫々上昇シテキルノハ此ノ頃第3代成蟲出現ノ時ト考ヘラレ。又第Ⅴ齋ニ於テ12月10日より漸次曲線ガ上昇シ始メタノモ第3代成蟲ノ出現ト解釋サレルガ、此ノ點ニ就テハ後述矣。

第Ⅰ、Ⅲ齋ノ増加率ハ直線ニ近ク、略々次ノ式ニ依ヘナレル。

第Ⅰ齋  $Y = 0.009X + 0.36$

第Ⅲ齋  $Y = 0.013X + 0.60$

但シ  $X \rightarrow 10月16日$  ポリノ経過日数 $Y \rightarrow$  第Ⅰ齋ノ成蟲數 / 對スル比

0.009及0.013ヘ大黒鼠ノ場合ニ對スル「マウス」ノ場合ノ成蟲ノ増加係數デアル。第Ⅰ齋ガ此ノ係數ガ大ナル事ハ第Ⅲ齋ガ第Ⅰ齋ヨリモ成蟲ノ増加率ガ大ナル事ヲ示ス、此ノ係數少基異不吸血原ノ量的差異ニヨルノミナラズ、「マウス」ノ匹數ノ多少ニヨル環境ノ質的差異ニヨル所ガ太デアラウ。

次ニ第Ⅲ、Ⅳ齋ニ於ケル第3代成蟲出現期ヘ此ノ直線カラ容易ニ判断サレル。即チ第Ⅰ齋ヘ11月20乃至25日頃第3代成蟲ガ出現シ始メタ事ヘ後述スルガ、スルト11月20乃至25日カラ第Ⅳ齋ノ成蟲數ヘ著シク増大シテキル答デアル。之ニ對シテ若シ第Ⅱ、Ⅴ齋ニ於テ成蟲數ガ比例シテ増大シナケレバ圖ノ様ナ直線ヲ呈スル答ガナイ。從ツテ第Ⅰ齋ト同ジ頃成蟲ガ増加シタル事ヘテ基支ヘナリ。故ツテ第Ⅲ、Ⅳ齋ノ第3代成蟲出現期モ11月20日乃至25日ト考ヘテ基支ヘナリデアラウ。

2) 各實驗區ニ就テ雌卵ノ雄卵ニ對スル比ノ消長ヲ見レバ第4表ノ如クナル。

458—6

最初各齢共ニ曲線ガ上昇スルノハ雄蚕ガ雌蚕ヨリ遅レテ羽化スル爲デ、此ノ事ハ既ニ村國大  
(4)  
 脚ニヨツテ報告サレテキル所デアル。特ニ注目スペキハ第Ⅰ齢ト第Ⅳ齢ガ殆ド同一ノ曲線ヲ描  
 イテキル事デアル、曲線ハ何レモ10月21日ヨリ31日迄急ニ上昇シ以後略ニ一定ノ値ヲ保チツ、  
 11月20日乃至25日ヨリ下降シ始メ、12月5日ヨリ再び上昇シテキル、此ノ曲線ノ下降シ始メタ  
 ノハ第3代成蟲ノ出現ニヨルト考ヘラレ、第Ⅳ齢ニ就テハ第3表デ想像シク所ト一致シテキル。

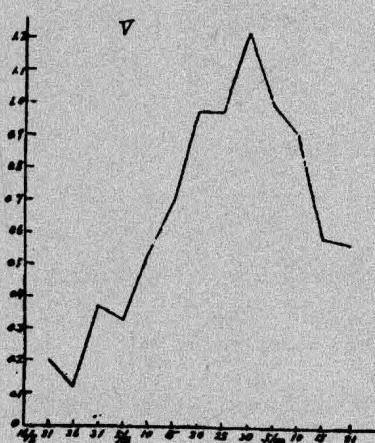
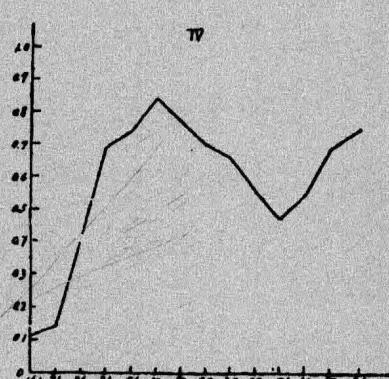
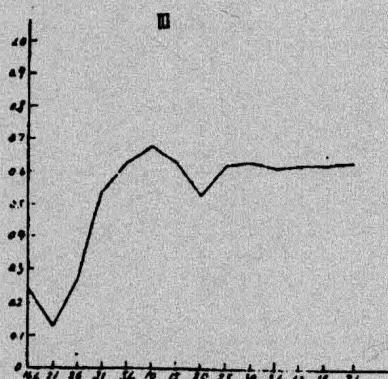
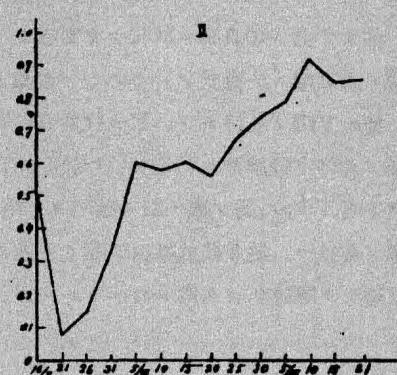
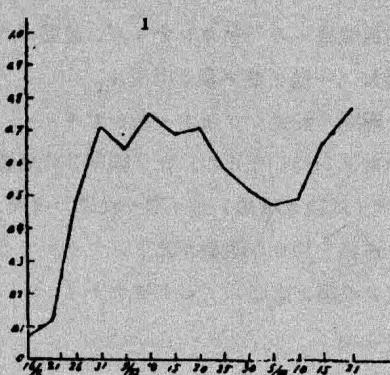
之ニ對シ第Ⅱ及Ⅲ齢デハ、曲線ガ10月31日乃至11月5日迄上昇シテキルノハ第Ⅰ及Ⅳ齢ト略  
 ニ同様デアルガ、其ノ後第Ⅱ、Ⅲ齢ニ見ルガ如キ下降ハナイ。然ルニ前述スル所ニヨレバ、此  
 ノ兩齢共第3代成蟲出現期ハ、第Ⅰ齢ト同シク11月20日乃至25日頃デアル。依ツテ第Ⅲ齢ノ曲  
 線ノ11月20日ノ下降ハ或ハ第3代成蟲出現ノ爲ト考ヘラレル。其ノ後此ノ曲線ハ略ニ一定ノ値  
 ヲ示シテキル、第Ⅲ齢ノ曲線ニハ殆ド下降ガ認メラレナイ。

又第Ⅶ齢ハ11月30日迄上昇ヲ續ケ、其ノ後下降シテキル、殊ニ12月10日ヨリ急ニ下降シテキル。  
 此ノ事ハ第3表デ第Ⅶ齢ノ曲線ガ12月10日ヨリ上昇シテキル事ト併セ考ヘルナラバ、12月  
 10日頃カラ第3代成蟲ガ出現シト考ヘヨイデアラウ。第Ⅶ齢ト比ベルト第3代成蟲出現期  
 ガ約15日遅レテキル事トナル。

次ニ第Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ齢デハ、雄蚕ハ雌蚕ノ6~7割以上ヲ殆ド出ナイノニ第Ⅱ、Ⅴ齢デハ9~12割  
 ニ達スル事ガアルノヘ何故デアルカ、一方村國大尉ハ大黒鼠ヲ用ヒ<sup>(4)</sup>實驗ニ於テ、雌蚕ノ雌雄  
 別構成如何ハ次代成蟲ノ雌雄別構成ニ影響ヲ及サナイデ概モ半數充デアルト報告シテキルガ、  
 大黒鼠ヲ用ヒタ第Ⅰ齢ニ於テハ實驗間雌ハ雌ニ比シテ少數デアル。且同氏ノ雌雄ニヨリ其ノ壽  
 命ニ著シイ差異ナシトノ記載ヨリスレバ、此ノ雌雄ニヨル成蟲數ノ差異ヲ生ジタ原因ハ解カラ  
 ナイ。併シ注意スペキバ、成蟲出現數ノ多イ、換言スレバ飼育成績ノ良好ナ齢ニ於テ雌雄ノ數  
 ニ可ナリノ開キガアル事デアル。此ノ事カラ考ヘレバ、正常ナ繁殖狀態ニ於テハ雌數ハ雄數ヨ  
 リモ常ニ大デハナカラウカ、而シテ雌數ニ比シ雄數ノ近接シテキル第Ⅲ齢、背テハ雌數ヲ凌駕  
 シク事ノアル第Ⅴ齢ヘ、何等カノ原因ニヨツテ雌成蟲數ノ增加ガ妨げラクノデハナカラウ  
 カ。或環境要約ノ下ニアツチハ雌成蟲ノ壽命ガ雄ニ比シテ短イカ、或ハ雌ヘ羽化スル迄ノ狀態  
 ニ於テ雄ヨリモ外界ノ影響ヲ受ケ易イカ、先づ之等ノ原因ガ考ヘラレル。

第4表

458-7



T2532

458-8

3) 次に実験開始より20日目即ち10月6日より10日目毎に雌雄別に成蟲数の差を示す  
ト第5表となる。此ノ差は10日間に羽化シテ成蟲数カラ其ノ間ニ死亡シテ成蟲数ヲ減ジタモノ  
デアル。従ツテ其ノ10日間に羽化シテ実数トハ相當差異アルハ免カレナイガ、成蟲ノ死亡ノ割  
合が各齢ニ就テ略々一定デアルトスレバ成蟲ト增加ノ一端ヲ観フ事が出来ル。

第Ⅰ、Ⅱ、Ⅴ齢ノ曲線カラ、第3代成蟲出現ノ時期へ前述シテ所ト一致シテキル。

第Ⅳ齢ノ曲線ヘ雌雄共に第5旬(11月15—25日)より上昇シテキル。此ノ頃第3代成蟲が出現  
シ始メクト考へラレ、此ノ事へ既ニ述べケ、第3代ノ卵數が増加シナリ事ハ注意スペキデアル。

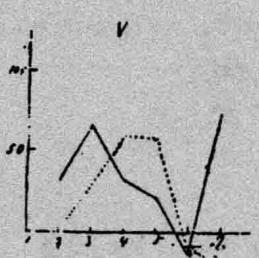
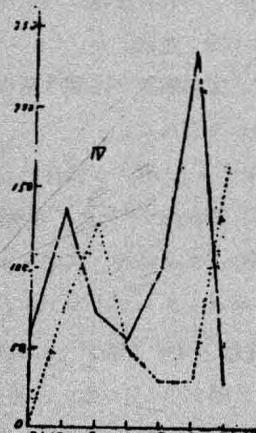
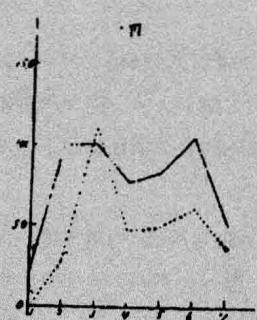
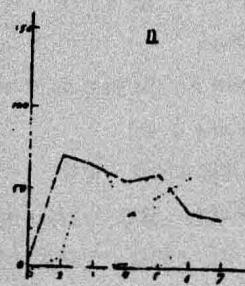
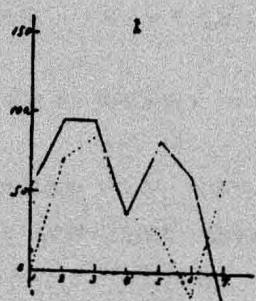
第Ⅲ齢ノ曲線ヘ、第3代成蟲出現期ト見做サレル第5旬カラ雌數が低下シテキルノハ、雄  
ノ出現ガ著シク障礙サレタ爲ト考へラレルガ、其ノ原因ガ奈過ニアルカ解ラナイ。

458-9

第5表

實驗  
年  
度  
第  
3

鰯和...成蟲數、鰯幼...卵數) 3人



458-9

458-10

## 第4章 紹論並ニ考按

以上9月17日ヨリ12月21日迄陸軍軍醫學校防疫研究室ニ於テ、大黒鼠ヲ對照トシテ「マウス」及「モルモット」ニヨル「ケオビスネズミノミ」ノ飼育試験ヲ行ツク所、次ノ如キ結論ヲ得ク。

- 1) 「ケオビスネズミノミ」ハ本來ノ宿主デアル鼠以外ノ「マウス」及「モルモット」ニ寄生シテ產卵増殖スル。即チ「マウス」及「モルモット」ノ血液ハ「ケオビスネズミノミ」ノ產卵ニ對スル刺較トナリ得ルモノデアル。
- 2) 「マウス」及「モルモット」ニ對スル「ケオビスネズミノミ」ノ適應ガ考ヘラレル。即チ時日ト共ニ成蟲ノ增加率ガ大トナル。
- 3) 「マウス」ヲ3匹乃至5匹一單位トシテ使用スルト大黒鼠ノ場合ノ成蟲數ヲ凌駕シテキル。殊ニ5匹ヲ用ヒタ場合ハ第3代成蟲ノ出現ニヨツテ成蟲數ハ飛躍的ニ增加シテキル。
- 4) 「モルモット」ヲ用ヒタ場合ハ大黒鼠ノ其ニ比較スルト飼育成績ハ不良デアルガ、漸次成蟲數ハ增加ノ傾向ヲ示シ、第3代成蟲ノ出現ニヨツテ更ニ一層增加ノ傾向ニアル。

「モルモット」ノ場合ハ他ノ4實驗區ニ比ベテ第3代成蟲ノ出現ガ著シク遲延シテキル。

「モルモット」ニヨル飼育成績が不良デアル原因トシテ考ヘラレルノハ、床ノ温潤ガ著シイ點デアル。從ツテ今回ノ實驗デハ、「モルモット」ヲ隔日ニ飼育籠カラ出シテ蛋床ガ過度ニ温潤スルノヲ防イダガ、依然相當ノ温潤ヲ免カレナカツク。更ニ蛋床ヲ乾燥サセル様ニシクナラバ一層良イ成績ヲ得ルト考ヘル。

一體、「モルモット」ノ與ヘル條件乃至環境ガ所謂『ケオビス氣候』トナレバ飼育成績が良好トナル筈デアルガ、現在此ノ『ケオビス氣候』ヲ測定スル方法ガナイ、從ツテ蛋床ノ温潤ノ度ヲ大黒鼠ヲ用ヒタ場合ノ床ノ温潤ノ狀態ト、肉眼的ニ乃至ハ秤量シテ比較シ、大黒鼠ノ場合ノ温潤狀態ニ近似サセヤウトルノミデアル。

- 5) 實驗區中飼育成績ノヨイ3罐デハ、雄蛋數ノ雌蛋數ニ對スル比ハ0.8ヲ越ヘル事ハ殆ドナイノニ對シテ、他ノ2罐デハ0.9ニ達シ、甚シイノハ1.2ヲ越ヘテキル。從ツテ正常ノ増殖狀態ニ於テハ雌蛋數ハ常ニ雄蛋數ヨリモ大ナルモノデハナカラウカ。

以上ノ結論ハ上述ノ様ナ室温濕ノ下デ、上述ノ様ナ飼育方法デ行ツク一實驗例ニ過ぎナイ。從ツテ別ナ室温濕ノ下ニ別ナ方法デ飼育試験ヲ行ツクナラバ全ク異ツク結果ヲ得ルカモ知レナイ。

要スルニ「ケオビスネズミノミ」ハ本來ノ宿主デハナイ「マウス」及「モルモット」ニヨツテモ増殖スル事ハ以上ノ實驗デ知リ得ルガ、大黒鼠ト比較シテ宿主トシテノ優劣ハ早計ニ論ズル事ハ出來ナイ、所謂『ケオビス氣候』ヲ分析シ得テ始メテ此ノ問題ガ解決サレルデアラウ。

實驗助手 清水英治

## 引用文獻

- 1) 日本昆蟲圖鑑：北條館、小泉丹記載ニヨル「ケオビスネズミノミ」ノ項
- 2) Martini: Lehrbuch der medizinischen Entomologie S. 139, 1923.
- 3) 材圃茂：「ケオビスネズ

458—11

ミノミ」ニ關スル實驗的研究、第1調 成蟲ノ交尾、吸血、產卵並ニ壽命ノ相互的關係、陸軍軍醫學校防疫研究報告、第2部第188號 4) 村田 茂：「ケオビスネズミノミ」ニ關スル實驗的研究、第2調 成蟲ノ組合セト繁殖、陸軍軍醫學校防疫研究報告、第2部、第245號

陸軍軍醫學校防疫研究報告  
第2部 第460號

「マラリア」原蟲検索上ニ於ケル厚層標本ノ優劣、  
ギムザ氏染色法トマンソン氏染色法ニ依ル原蟲  
検出率ノ比較實驗ニ就テ

北支那給水防疫部  
陸軍軍醫少尉 寺 内 政 雄

第 2 部
原 著
分 類
481-1
481-6
310-81
受附 昭和15. 3. 23